

## 生活路線分科会で出された主な意見

## ○開催日時

平成 28 年 2 月 1 日（月） 9 時～10 時 20 分

## ○出席委員

全 17 委員中 14 委員が出席

該当箇所	意見	対応（草案の修正等）
P48	① 「霧島市内在住の高校生の公共交通利用者は 13.8%にとどまっている。」と表現されているが、溝辺地域から国分高校・国分中央高校へ通学するには自家用車等の送迎が必要。	①「霧島市内在住の高校生の公共交通利用者は 13.8%です。」に修正。
P44 P58、59	② 溝辺には、医師会医療センターの利用者が多数存在する。現在、医療センターへ乗継なしでいける路線がないためぜひ支線バスを要望する。	—
P70	③ 溝辺ふれあいバスは鹿児島空港で中心市街地行きの路線バスに接続しているが、高齢者は乗継を好まない。	—
	④ 溝辺地域から市内の公立高校に通うのは大変不便であり、高校の選択の幅が狭まっているのが実態。国分・隼人地域の高校へは、溝辺から加治木駅までバスを利用し、日豊本線に乗り換えるパターンが多く、保護者の負担も大きい。	—
P34.35	⑤ 福山のふれあいバスは牧之原を拠点としている。福山の下場の海岸線に住んでいる方から、「牧之原に行くのであれば国分に行きたい。」「牧之原に行くことはないので、ふれあいバスは不要。」という意見がある。	—
P67	⑥ ふれあいバスの利用が1便当たり2人未満の場合、市が「住民座談会」を開催することとしているが、本座談会から、「ふれあいバスの利用状況調査」までどの程度の期間を予定しているか。	住民座談会から利用状況調査までの間、地域においてもふれあいバスの利用促進を図ってほしいと考えているため、一定の期間は確保すべきと考えるが、具体的な期間については今後検討する。

## 観光路線分科会で出された主な意見

○開催日時

平成 28 年 2 月 1 日（月）10 時 30 分～12 時

○出席委員

全 20 委員中 17 委員が出席

該当箇所	意 見	対 応（草案の修正等）
P60.61 P70 P73	① 観光客が霧島温泉駅で路頭に迷っている状況を目にする。JRからの接続便（路線バス）を1時間に1本程度は確保すべきである。	—
P60.61 P70	② 観光地に滞在（1時間程度）できるような周遊バスが必要である。	—
P51 P70	③ 旅館から空港への送迎用として、チェックイン、チェックアウトの時間に合せて宿泊旅館を巡回するバスを運行できないか。	—
P70	④ 霧島アートの森（湧水町）への路線バスの運行や宮崎県側との接続など周辺観光地との連携も必要である。	—
P73	⑤ 外国人旅行者に対応したバスマップを作成する必要がある。また、紙媒体のマップだけではなく、出発地で検索できるようなICTを活用したシステムも必要不可欠である。	P74 の事業計画に「ICTを活用した効率的な公共交通情報の提供の検討・実施」を追加掲載。
P73	⑥ 国分駅東口は一般車両が乗入れているため、路線バスの運行に大きな遅延が発生している。国分駅西口の活用も含めた検討が必要では。	—